

2014年1月16日

全3頁

アメリカ経済を知る！ 第9回

世界との繋がりを示す国際収支統計

ニューヨークリサーチセンター

エコノミスト 笠原 滝平

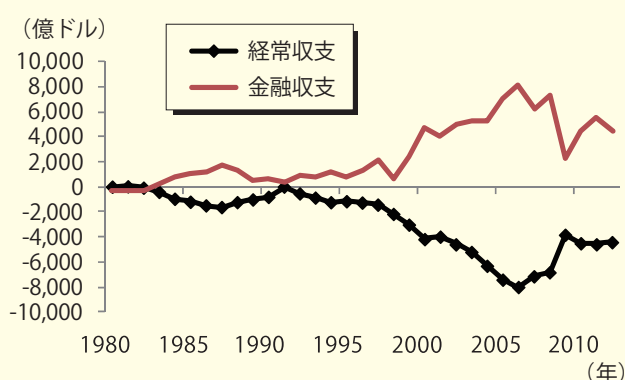
上野 まな美

1 国際収支統計とは

国際収支統計とは、一定期間における国の国際取引を記録した統計です。言わば複式簿記のようなものであり、国際収支統計によって、個人や企業、政府機関を含めた、一国と他国との投資や財・サービスの取引が分かります。国際収支統計は、国際通貨基金（IMF：International Monetary Fund）が定めた国際基準¹であり、アメリカの国際収支統計は、IMFの基準を参考に経済分析局（BEA：Bureau of Economic Analysis）から、四半期、および1年間ごとに発表されます²。

内訳は、大きく3つに分けられ、経常収支（Current account）、資本移転等収支（Capital account）、金融収支（Financial account）から構成されます。経常収支は、財・サービス貿易収支、対外・対内投資による利子や配当の受払いを表す所得収支、さらに外国への援助や贈与など表す経常移転収支から成り立っています。金融収支は、たとえば日本の投資家がアメリカの国債に投資する対内投資と、逆に米国の投資家が日本の株式に投資する対外投資の収支、さらに金融派生商品の取引から構成されています。アメリカは長らく経常収支の赤字が続いており、反対に海外からの投資の受け入れを表す金融収支の黒字によってバランスする構造となっています。資本移転等収支は、固定資産の取得や処分にかかる資本の移転などによる収支です。

図表1 経常収支と金融収支



(出所) 経済分析局より大和総研作成

1) <http://www.imf.org/external/pubs/ft/bopman/bopman.pdf>

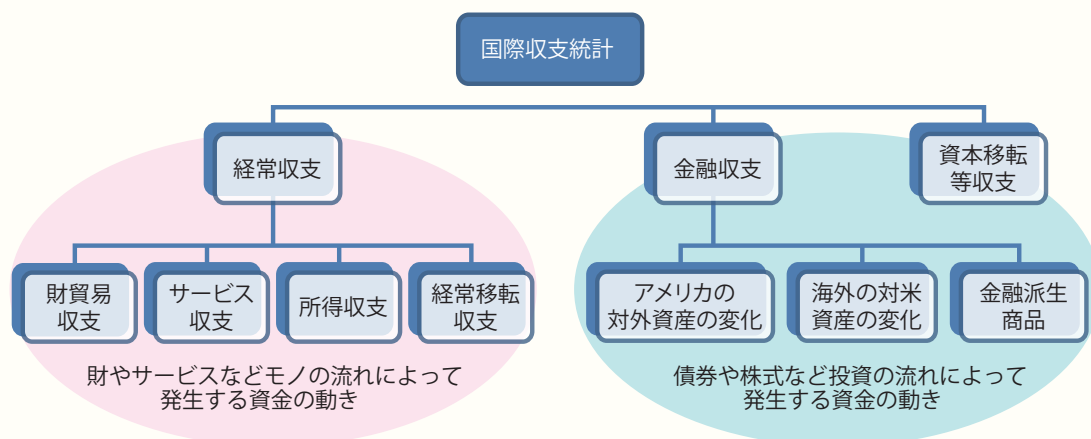
2) 日本の国際収支統計とは言葉の定義、カバーされる範囲が違うことがあるので注意が必要です。日本の国際収支統計は2014年3月発表分から見直しが行われる予定で、本稿では見直し後の日本の国際収支統計に沿った日本語訳を用いています。

http://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2013/ron131008a.htm/

国際収支統計における取引は、受取または支払に分けられます。資金が自国へ流入する場合は受取となり、反対に自国から資金が流出する場合は支払となります。例えば、アメリカに住む人が日本からカメラを輸入した場合、その購入はアメリカにとっては支払となり、日本にとっては受取となります。この取引だけを見るとアメリカの経常収支が赤字になります。このとき、アメリカの日本に対する金融資産が減少（または金融負債が増加）するため、アメリカの金融収支は黒字となります。つまり経常収支が赤字となれば対外純資産は減少します。このように経常収支と金融収支は表裏一体の関係にあることがわかります。国際収支統計は国籍によってではなく、居住者と非居住者との間で一定期間に行われた全ての対外経済取引を体系的に記録したものです。

図表2 アメリカの国際収支の概念図

	経常収支	-	金融収支	+	資本移転等収支	+	誤差脱漏	=	0
2012年の場合（億ドル）：	(▲4,404)		(▲4,394)		(+70)		(▲59)		= 0



(注1) 2012年の数値は四捨五入している
(注2) 外貨準備増減は金融収支に含まれる
(注3) 誤差脱漏は概念図から除外した
(出所) 日本銀行、経済分析局より大和総研作成

2 アメリカの国際収支

アメリカは長期間にわたり経常収支が赤字であることが特徴です(図表3)。アメリカの経常収支は、1991年の黒字を除き、1980年代以降ほぼ赤字が続いています。特に経常収支の主要な構成項目である貿易収支の赤字の増加が顕著で、経常収支赤字の大部分を占めています。

これまでを振り返ると、アメリカの経常収支の赤字増加の原因としては様々な要因が考えられます。たとえば、アメリカの経済が不況に陥ったとき、政府は財政出動によって景気対策を行います。他にも、家計の過剰消費により民間貯蓄が減少し、貿易収支の赤字が拡大して、経常収支の赤字として表れます。他の要因として、たとえば、産業構造の変化が挙げられます。アメリカでは自動車や鉄鋼といっ

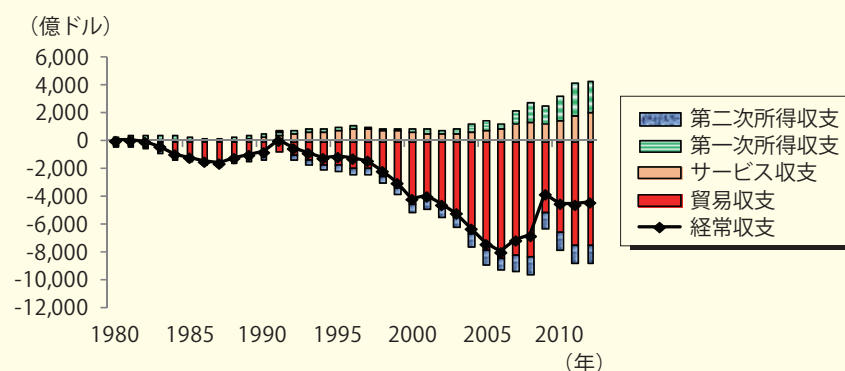
た伝統的な製造業から、金融やITサービスなどサービス業へ産業構造がシフトしていきました。サービス収支の黒字は拡大しましたが、相対的に製造業の割合が小さくなったことから、消費財や資本財を海外から輸入することにより、貿易収支の赤字が拡大しました。

労働など生産コストが上昇し、アメリカで生産する財は相対的に価格競争力が低くなり、海外からの輸入品が国内に流入しました。そして、多くのアメリカ企業は、製造コストを抑えることを目指して、人件費の安い海外に製造拠点を移転しました。この結果、アメリカ国内の製造業が衰退し、さらにアメリカの輸出が輸入を下回るようになりました。また、原油などのエネルギー価格の上昇によって輸入が増加することも貿易赤字拡大の要因として挙げられるでしょう。

経常収支が赤字ということは、アメリカ国内における投資と消費が国内の貯蓄を上回り、海外から資金を調達する必要があるということです。そのため、財政赤字の一部は海外の投資家によるアメリカ国債の購入によってファイナンスされており、これは金融収支の黒字として表れます。海外から財を輸入するなどモノの流れによって発生する資金は流出する一方で、アメリカは金融収支に分類される海外からの資金を受け入れています。それゆえ、経常収支赤字が続いても金融収支黒字で円滑にファイナンスされている限り、アメリカの金利に上昇圧力がかかる可能性は低いのです。

アメリカは、国債や株式などの証券投資だけでなく、アメリカ国内の企業買収による直接投資などさまざまな形で投資を受け入れています。また、アメリカから海外への投資も行われていて、この投資には、上述の生産拠点の海外移転も含まれており、アメリカ企業の海外拠点から国内へ還流する配当や利子は経常収支の所得収支（第一次所得収支）に含まれます。製造業の海外移転に伴って貿易収支の赤字幅は拡大してきましたが、これまでの対外投資によって積み上がった膨大な対外資産から得られる配当や利子は、対内資産に対する配当や利子を上回り、所得収支が黒字になっていることから、経常収支の赤字幅の抑制につながっています。また、対外資産から得られる価格や為替変動などの収益は、対内資産への支払いを上回っていることから、経常収支の赤字が続いているほどには対外純資産のマイナス幅が拡大していません。

図表 3 アメリカの経常収支の内訳



(以上)